



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3146号 2016.7.27 発行

書籍『今日からできる！障がいのある子のお金トレーニング』



Sankeibiz 2016年7月26日

『今日からできる！障がいのある子のお金トレーニング』
(翔泳社)

株式会社翔泳社（本社：東京都新宿区舟町5、社長：佐々木幹夫）は、書籍『今日からできる！障がいのある子のお金トレーニング』を2016年7月19日（火）に発売しました。

本書は、30年以上障がい者支援に携わってきた「福祉のプロ」と、人気ファイナンシャル・プランナーとして活躍する「家計のプロ」がタッグを組み、知的障がい（軽度～中度）のある方が自分でお金を管理できるようになるトレーニング方法をわかりやすく紹介した1冊です。

■どのくらいお金を残せばよい？ 残したお金は本人のために使える？

障がいのある子を持つ親にとって、「自分が亡くなったあとの子どもの暮らし」は切実な問題です。

本書では、親が元気なうちに準備しておきたい「障がいのある子どもの金銭管理教育」と、親自身がお

金と上手につきあうための「マネープラン」を解説します。障がいのある子のライフプラン事例を挙げながら、親の家計管理のポイントも紹介します。さまざまな福祉支援や社会保障を知って生活の収支を考えれば、必要以上にお金を貯めず、いまの生活をより豊かにすることも可能かもしれません。

幼児期から成年まで、何歳からでも始められ、知的障がいをともなうダウン症、自閉症、発達障がいの方にも役立ちます。

■書籍概要

『今日からできる！障がいのある子のお金トレーニング』

著者：鹿野佐代子、前野彩 発売日：2016年7月19日 定価：1,700円（税別）

判型：A5・176ページ

<http://www.shoeshisa.co.jp/book/detail/9784798146188>

翔泳社直販サイト「SEshop.com」では、書籍と書籍内に登場するトレーニングツールのセットも販売中です。

■書籍+お金カレンダー+マネポケセット

<http://www.seshop.com/product/detail/19494/>

■目次

プロローグ

第1章●自分でお金を管理して可能性を広げよう

- ・親が心配なのは、子どもの将来の「お金、住まい、生活」
- ・知的障がいのある人の金銭感覚
- ・知的障がいの特徴を知って能力を伸ばそう
- ・貯金推移のグラフ化で当事者にも家計がわかる

第2章●お金の基本が身につくトレーニング

- ・お金について知っておきたいこと
- ・お金の“見える化”で計画性を身につけよう
- ・お金を貯める練習をしよう！

第3章●日常生活に役立つトレーニング

- ・お金を賢く使うトレーニング
- ・「袋分け」を覚えてお金を計画的に使おう
- ・お金のトラブルを防ぐ教育
- ・障がい者の学校卒業後の進路

第4章●親もお金と上手につきあおう

- ・お金の不安はどこから来るの？
- ・楽しんで続ける家計管理のコツ
- ・親も頑張る！家計の大改造
- ・親の老後の生活は大丈夫？
- ・親が亡くなった後の子の生活は？

巻末資料●今から知っておきたい障がい者とともにある制度

■著者

●鹿野佐代子（しかの・さよこ）

大阪府障害者福祉事業団に勤め、30年のキャリアの中で入所施設、生活支援、就労支援、余暇活動支援など経験を積む。結婚支援をきっかけに「性教育」を学び、育児支援や日々の業務から「金銭支援」の重要性に気づき、FP資格を取得。現在は多機能型福祉施設に勤務しながら、社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社会政策研究員として活動。知的障がいのある人への金銭教育支援や、その家族に対して「親亡き後」の対策などFP知識を活かした講演活動を行う。サービス管理責任者。AFP・2級FP技能士。大阪府在住。

論文『知的障がい者の家族に対するファイナンシャル・プランニング』で第4回日本FP学会賞 日本FP協会奨励賞、『浪費する知的障がい者へのファイナンシャル・プランニング』で第1回「FP向上のための小論文コンクール」最優秀論文賞を受賞。

●前野彩（まえの・あや）

元学校の保健室の先生という異色のFP。自らの住宅購入や加入保険会社破綻の経験から、「お金に無知では自分の身を守れない」とFPに転身。家計の数字だけでなく、「気持ち」を大事にしたアドバイスを心がけ、年間300件を超える子育て家庭の家計相談を受けている。講演会や企業研修の依頼は年間100件以上、テレビや雑誌などのメディアでも活躍中。中学・高校のマネー教育講師や大阪成蹊大学の非常勤講師も務める。株式会社Cras代表取締役、FPオフィスwill代表。CFP認定者・1級FP技能士・住宅ローンアドバイザー。大阪府在住。

主な著書は、『本気で家計を変えたいあなたへ』『書けばわかる！子育てファミリーのハッピーマネープラン』（日本経済新聞出版社）、『家計のプロ直伝！ふるさと納税新活用術』（マキノ出版）、『危うくムダなお金を払うところでした』（産経新聞出版）。無料アプリ「あんしん老後の貯蓄計画」（iOS）も手掛ける。

水戸市と養命酒製造、薬草使い観光・産業新興

日本経済新聞 2016年7月26日

水戸市と養命酒製造は薬草を使った観光、産業振興で連携する。養命酒製造が市に計1000

万円を寄付するほか、薬草栽培のノウハウを提供する。市は管理する植物公園内にある薬草の栽培面積を1.5倍に広げ、育てた薬草を使った薬膳料理を園内で提供する。観光客を呼び込み薬草の魅力発信につなげるほか、市は薬草を新たな市の産業としても育てたい考えだ。

両者は25日に「薬草を活用した官民協働事業に関する協定」を結んだ。期間は2021年3月末までの5年間で、薬草に関する施設整備やイベント開催などで連携を深める計画だ。

連携事業の拠点は市の観光施設「水戸市植物公園」とし、薬草の栽培、活用に取り出す。園内では既に約1200平方メートルの「薬草園」を設けて、ミソハギやスイカズラなど60種類以上の薬草を栽培しているが、この薬草園を17年4月までに改装する。

名称を「水戸 養命酒薬用ハーブ園」に変えて650平方メートル拡張するほか、薬草に触れられる体験型施設とする。植物公園内には薬草を試験栽培する1500平方メートルの圃場も新たに設ける。

養命酒製造は整備、維持費用として16年度から5年間、毎年200万円を水戸市に寄付するほか、自社の持つ薬草栽培のノウハウも提供する。

植物公園内の喫茶店では8月6日から週末限定で薬膳メニューの販売も始める。バジルで作ったソースのサラダや、コリアンダーやクミンといった薬草で味付けしたカレーなどを千円以下で提供する予定だ。養命酒製造はレシピ開発でも協力した。

園内では薬草について特集した冊子発行やイベント開催も両者で進めていく。市は協定締結を機に、養命酒製造との交流を深め、将来は薬草の栽培農家を増やしたり市内で6次産業化に取り組んだり、薬草を市の産業としても位置づけていく。高橋靖市長は「健康志向が高まっているので、福祉分野での連携も検討していきたい」と協定締結の狙いを話した。

水戸市は、水戸藩の第2代藩主、徳川光圀が約400種類の身近な薬草の効能や使用法を記した家庭向け医学書「救民妙薬」を発行するなど薬草についての歴史が深い。

養命酒製造も漢方薬など薬草を使った商品開発で長い歴史があり「薬草に対する伝統や歴史など、価値観を共有できる」（川村昌平会長）と判断。水戸市に薬草の魅力発信拠点としての役割を期待する。

豪の少年院で職員による虐待

NHK ニュース 2016年7月26日

オーストラリア北部の少年院で職員が少年たちに暴行したりイスに縛りつけたりする虐待を繰り返していたことが明らかになり、ターンブル首相は有識者による独立した委員会を設置して真相究明を急ぐ考えを示しました。

オーストラリアの公共放送ABCテレビは25日夜、北部ダーウィンにある少年院で職員たちが、収容されている少年たちに対して虐待を繰り返してきたと、院内の監視カメラなどの映像とともに伝えました。

映像には、少年が顔を布で覆われた状態でイスに縛りつけられた様子や、複数の職員が少年を床に押さえつけて服を脱がしたり、少年たちの部屋に催涙ガスのようなものをまいたりする様子などが映っており、ABCテレビはこうした虐待は少なくとも去年までの5年間続けられたとしています。

報道を受けてターンブル首相は26日、「首相として迅速に対応し、必要な措置をとる」と述べて、有識者による独立した委員会を設置して真相究明を急ぐ考えを示しました。一方、少年院を管理している地元自治体の責任者は委員会に協力する考えを示しましたが、長年にわたる虐待への対応を怠っていたことに批判が集まっています。

障害者施設殺傷 知的障害者と家族の団体が緊急声明 NHK ニュース 2016年7月26日

相模原市の障害者施設に刃物を持った男が侵入して入所者などが刺されて死亡した事件

を受けて、知的障害のある人と家族で作る「全国手をつなぐ育成会連合会」は、26日夜、緊急の声明を出しました。

この中で事件について、「抵抗できない障害のある人に次々と襲いかかり、死傷させる残忍な行為で、到底許すことはできません。事件は、多くの障害のある方や家族を不安に陥れ、深く大きな傷を負わせました。このような事件が二度と起きないよう、事件の原因や背景を徹底的に調査・究明し、深く議論をして今後の教訓にしてください」と、再発防止を徹底するよう求めています。

そのうえで、「容疑者は、障害のある人の命や尊厳を否定するような供述をしていると伝えられていますが、どのような障害があっても一人一人は命を大切に、懸命に生きています。事件で無残にも奪われた一つ一つの命は、かけがえのない存在でした。国民の皆様には、今回の事件を機に、障害のある人一人一人の命の重さに思いをはせるとともに、障害の有る無しで特別視することなく、お互いに人格と個性を尊重しながら共生する社会に向けて共に歩んでいただきますよう心よりお願い申し上げます」と訴えています。

「重度障害者殺す」＝措置入院時、大麻陽性反応―逮捕の植松容疑者・施設襲撃

時事通信 2016年7月26日

知的障害者施設「津久井やまゆり園」の施設内を調べる神奈川県警の捜査員＝26日午後、相模原市緑区



相模原市緑区の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者ら19人が刺殺され26人が重軽傷を負った事件で、殺人未遂などの容疑で逮捕された元同施設職員植松聖容疑者（26）が2月に「重度障害者を殺す」などと話していたことが26日、相模原市への取材で分かった。

施設は植松容疑者の発言を受けて神奈川県警津久井署に連絡、医師の診察を経て措置入院させた。この際、大麻の陽性反応が確認されたという。

県警は26日午後、津久井署に捜査本部を設置。同容疑者が障害者への殺意を抱くようになった詳しい経緯などを調べている。

市精神保健福祉課によると、植松容疑者は同施設に勤務していた2月18日、施設職員に「重度障害者を殺す」と発言。施設は翌19日に同署に連絡した。

津久井署員が19日に面談した際には、「重度障害者の大量殺人は、日本国の指示があればいつでも実行する」と話した。医療機関で診察した医師は「そう病」と診断。緊急措置入院となり、同日付で施設を退職扱いとなった。

同22日の再診察では「大麻精神病」や「妄想性障害」などと診断され、改めて措置入院の処置が取られた。しかし、その後の診察で措置入院の必要性は消失したとされ、3月2日に退院したという。

植松容疑者は措置入院前の2月14日には衆院議長公邸（東京都千代田区）を訪れ、障害者殺害を予告する内容の手紙を渡そうとしていたことが既に判明している。

植松容疑者の逮捕容疑は7月26日午前2時ごろ、津久井やまゆり園に侵入し、入所者の女性（19）を刃物で刺し殺害しようとした疑い。女性は同日朝、死亡が確認された。捜査関係者によると、同容疑者は「障害者なんていなくなればいい」との趣旨の供述をしている。

県警によると、午前2時ごろに植松容疑者が施設へ侵入する様子が、防犯カメラに映っていた。施設1階の窓ガラスが割れて近くにハンマーが落ちており、同容疑者は「窓から入った」と供述しているという。

<相模原殺傷>容疑者の尿と血液から大麻陽性反応…2月 毎日新聞 2016年7月26日
事件のあった相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」に集まる救急隊員ら＝2016年7月26日午前7時10分、本社ヘリから



相模原市緑区の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で26日、入所者ら多数が殺傷された事件で、相模原市によると、2月20日、植松容疑者の尿と血液を検査したところ、大麻の陽性反応が出たという。

同市によると、今年2月、警察から（植松容疑者が）他人を傷つける恐れがあるなどと連絡を受けて措置入院の対応を取った。3月に医師が診断し、退院したという。

逮捕の男「施設を回って600人殺す」 日本テレビ系（NNN）2016年7月26日

26日未明、神奈川県相模原市の障害者福祉施設で入居者ら45人が刺された事件で、逮捕された植松聖容疑者（26）は、知人に対し「障害者は死んでくれた方がいい」などと話していたという。

植松容疑者の取り調べは、神奈川県警・津久井警察署で行われている。事件直後の午前3時頃、植松容疑者は車で出頭した。その車の中には食べかけのパンなどが散乱し、助手席には血のりのようなものが付いたコンビニの袋もあった。

警察によると、植松容疑者は出頭時に「やつをやった」と話し、持っていたカバンには血の付いたものなど3本の刃物が入っていたという。

捜査関係者によると、植松容疑者は、止めに入った職員を結束バンドで縛って部屋の鍵を奪い、次々と入居者を刺したという。

植松容疑者を知る人「園（施設）で暴力があつて、職員が（暴力を）見かけた部分もあったんでしょ。その状況がどの程度かは分からないけど、1回2回じゃなかったと思う。度々あったので、（施設の職員が）どういう人か聞いてきたんだと思う」

植松容疑者の別の知人によると、植松容疑者は去年、「障害者は死んでくれた方がいい。その方が家族は楽だ。施設を回って10月までに600人殺す。まず自分がいた施設からやります」と話していたという。

植松容疑者は逮捕後の調べに対し、「ナイフで刺したことは間違いない」と容疑を認めた上で、「施設を辞めさせられて恨んでいた」と話しているということで、警察は詳しい動機などについて調べている。

血の臭い充満、倒れる入所者＝殺傷事件の障害者施設－現場到着の消防士



時事通信 2016年7月26日
障害者施設「津久井やまゆり園」の施設内を歩く救急隊員ら＝26日午前、相模原市緑区

通報を受けて最初に現場に到着した相模原市消防局津久井消防署の小泉伸二警備課主幹（48）は、「部屋には血の臭いが充満し、入所者があちこちに倒れていた」と、生々しい現場の状況を語った。

小泉主幹によると、26日午前2時50分に「刃物を持った男が暴れている」との通報を受け、救急や消防など同署員13人が出動。中央入り口から建物に入り、救助活動を行った。

当初は犯人が複数いると聞いていたが、間もなく植松聖容疑者（26）の身柄が確保された。職員の案内で薄暗い廊下を抜けて部屋に入ると、入所者がベッドの上や床に血まみ

れで倒れていた。いずれも頭や首、肩などを切られており、室内は血の臭いが充満していた。

知的障害者施設「津久井やまゆり園」の玄関付近を調べる神奈川県警の捜査員＝26日午後、相模原市緑区

息のある入所者もパニック状態で、声が出せない人も。震えながら廊下にくずくまったり、救助を訴えたりしていた。「無我夢中だった」。初めて見る凄惨（せいさん）な現場で、小泉主幹は100室近くの部屋を次々と確認し、治療や搬送の優先順位を付ける「トリアージ」に追われた。

最初に患者を搬送できたのは通報から約1時間半後。最終的には東京消防庁などの応援も含めて計42隊、135人が救急活動に従事したという。



施設設置の神奈川県 知事「心からおわび 再発防止に全力」

NHK ニュース 2016年7月26日



津久井やまゆり園」を設置した神奈川県が、26日午前、記者会見しました。この中で黒岩祐治知事は「施設を指導監督する立場から、心からおわびを申し上げるとともに、亡くなられた方には心からの哀悼の意を表します。また、警察の捜査に協力し、再発防止に全力を尽くしたい」と述べました。

侵入者などを施設全体に知らせるシステムなし

会見の中で県の担当者は、事件が起きた当時、施設は夜勤の態勢となっていて、8人の職員と1人の警備員の合わせて9人の職員がいたことを明らかにしました。

施設では入所者が20人ごとに1つのユニットとして生活していて、中には2人部屋が8つ、1人部屋が4つあるということです。この施設にはこうしたユニットが8つあり、それぞれ施錠されているため、通常はユニットの間を自由に行き来することができないということです。

県は、元職員の男は、2つある居住棟のうち東棟の1階の窓ガラスを割って侵入したとみられることを明らかにしました。被害はその付近の利用者に集中していたものの、別のユニットにも及んでいたということです。

担当者は「何らかの手段でほかのユニットに行ったと思うが、当時、施錠されていたかどうかを含めて、詳細は確認を行っている」と話しました。

また県は、施設に今回のような外部からの侵入者を察知して施設全体に知らせるシステムはなかったことを明らかにしました。

施設には火災が発生したときに施設全体に知らせる警報装置はありますが、夜間も警備担当者を配置していることなどから、今回の事件のように外部からの侵入を察知して一斉に施設全体の職員に危険を知らせるシステムは備えられていませんでした。

元職員の男は居住棟のガラスを割って侵入したとみられていますが、警報が鳴ったり、自動的に外部に通報されたりすることはなかったということです。

津久井やまゆり園の元職員は

「津久井やまゆり園」の元職員で、近くに住む70代の男性は「13年前まで施設で働いていた。入所している人の障害の程度はさまざまで、24時間介護が必要な体の不自由な人も多くいた。私も入所している人の介助をしたり、一緒に散歩をしたりしていた」と話していました。

また、6年前まで勤務していた元職員の男性は「施設では24時間態勢で利用者の食事

や入浴、トイレなどの世話をする必要があり、仕事は大変だが、職員たちは皆やりがいをもっていった。夜間の勤務時間は夕方6時半から朝の6時半までの12時間で、遅番がいなくなる夜9時以降は1人で20人の入所者を担当していた。職員どうしや上司と部下の間でささいな口論などは時々あったが、利用者に対する虐待やトラブルは今までなかったと思うので、今回の事件には大変驚いているし、信じられない」と話しています。

知事が事件現場訪れる

事件を受けて、神奈川県黒岩知事は26日午後2時半すぎ、「津久井やまゆり園」を訪れ、施設を運営する社会福祉法人の理事長や入所者などの家族で作る家族会の代表などに大きく一礼しました。

黒岩知事は、亡くなった人たちの家族の様子や、事件を起こした元職員の植松聖容疑者の勤務状況について聞き取ったあと、家族会の代表に花束を渡し、哀悼の意を表しました。

黒岩知事は記者団に対して「最も弱い立場の障害者を守る仕事に携わっていた人間が、どうしてこれだけの凶行に及んだのか。本当に許せない」と述べました。そのうえで「警察の捜査に全面的に協力して原因を究明し、このような事件が二度と起きないように再発防止策を考えたい」と述べました。

【相模原19人刺殺】津久井やまゆり園は障害者福祉の地域拠点 困難介護者を積極受け入れ、雇用も創出

産経新聞 2016年7月26日
現場となった障害者福祉施設「津久井やまゆり園」内で捜査を行う警察官ら＝26日午後、相模原市緑区（早坂洋祐撮影）



殺傷事件が起きた障害者施設「津久井やまゆり園」は相模原市北部にあり、障害者福祉の地域拠点として他の施設では対応が困難な人も積極的に受け入れている。過疎化が進み、若者の流出に悩む地域の貴重な雇用先となっているほか、祭り会場や災害時の避難所にもなるなど、まさに「地域の核」とも呼べる施設だ。

神奈川県などによると、同園は県営施設として昭和39年に開設。平成17年以降は県指定管理者の社会福祉法人「かながわ共同会」が運営している。

重度の知的障害者のほか、知的、身体両障害を持つ人が暮らし、4月末時点の入居者数は19～75歳の男女計149人。平均年齢は49歳、平均入居年数は18年という。事件当日は157人が入居していた。頻繁に自傷するなど特別な支援が必要な「強度行動障害」を持つ人も支援してきた。

敷地面積は約3万平方メートル。東西に2棟の居住棟があり、各棟の1階と2階には20人が暮らせる寮型の施設が2つずつ設置されている。総定員は160人で、プール、体育館、グラウンドなどを備えている。

職員は常勤約140人、非常勤約80人で、合わせると約220人に上る。

プーチン大統領が弔電送る「障害者を狙った残忍さに動揺している」【相模原殺傷事件】

The Huffington Post 執筆者：吉川慧 2016年07月26日



相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で7月26日午前2時半すぎに発生し、19人が死亡した殺傷事件で、ロシアのプーチン大統領が同日、安倍晋三首相宛てに哀悼の意を表明するメッセージを送った。タス通信などが報じた。

プーチン大統領は弔電の中で、「無防備な障害者を狙って実行された犯罪の残忍さに動揺している」と、遺族に哀悼の意を示した。その上で、負傷者の早期回復を願うとした。今回の事件は、CNN や BBC など海外メディアも「稀に見る大量殺人事件で、日本に衝撃が走った」など、事件の凄惨さを大きく伝えた。ロシア国営テレビも事件現場からのリポートを交えて「第2次世界大戦後、最悪の殺人事件」と伝えた。

■アメリカのケリー国務長官「一種のテロだ」

アメリカのケリー国務長官は26日午後、滞在しているラオスのビエンチャンでの記者会見で「事件で愛する人を失った人たちに心からお悔やみを申し上げる。つらい時を過ごしている人たちのことを思い祈りをささげたい」と哀悼の意を示した。

その上でケリー国務長官は、「(事件は) 一種のテロだ」と非難。「われわれの思いは日本の人たちとともにある」と述べた。

障害者施設襲撃 安倍首相「真相解明に政府としても全力」

FNN ニュース 2016年7月26日

安倍首相は、26日朝の自民党役員会で、神奈川・相模原市の障害者施設で、入所者などが刺され、19人が死亡し、20人が重傷を負った事件について、犠牲者に「心からご冥福、お見舞いを申し上げます」と述べたうえで、「これから真相解明、究明をしていかなければならない。政府としても、全力を挙げていきたい」と強調した。菅官房長官は「本件は、多くの何の罪もない方々が犠牲となった、大変、痛ましい衝撃的な事件であります」と述べた。一方、菅官房長官は、「亡くなられた方々にご冥福をお祈り申し上げます」と述べた。また、情報収集のため、厚生労働省の職員2人を現地に派遣したことを明らかにし、厚労省を中心に、関係省庁が協力して、再発防止策を早急に検討し、対応していく考えを示した。

厚労省 障害者施設などに安全管理の徹底呼びかけ NHK ニュース 2016年7月26日

今回の事件を受けて厚生労働省は障害者施設などの社会福祉施設と医療機関それぞれに対し、施設の入居者や利用者、それに入院患者などの安全管理を徹底するよう呼びかけました。この中で、施設の防犯体制や安全管理の体制を確認することや、緊急時の職員や地域のボランティアとの連携体制などを再点検することを呼びかけています。厚生労働省は「施設の入居者や患者などが安心して治療を受けることができ、生活できるよう、安全管理などを徹底してほしい」と話しています。

障害者殺傷容疑者を昨年書類送検 警視庁、傷害容疑で 西日本新聞 2016年7月26日

相模原市の障害者施設殺傷事件で、殺人未遂容疑で逮捕された植松聖容疑者(26)が昨年6月、東京都八王子市の路上でけんかになった相手にけがを負わせたとして、警視庁八王子署が同12月、傷害容疑で書類送検していたことが26日、同署への取材で分かった。送検容疑は昨年6月28日午前1時ごろ、友人の男性と共謀。直前に通行人の20代の男性会社員から「死ぬ」などと言われて腹を立て、男性の頭部にけがをさせた疑い。八王子署によると、植松容疑者は男性の胸ぐらをつかみ、友人が頭をたたいたり、脚で蹴ったりした。植松容疑者は友人と酒を飲んだ後だった。男性と面識はなかったという。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行